

中教審答申

「学士課程教育の構築に向けて」 をどう読むか

— 専門体育、教養体育、私学経営の立場から —

司会：師岡 文男

((社)全国大学体育連合・調査研究部長、上智大学)

小林 勝法

((社)全国大学体育連合・FD推進部長、文教大学)

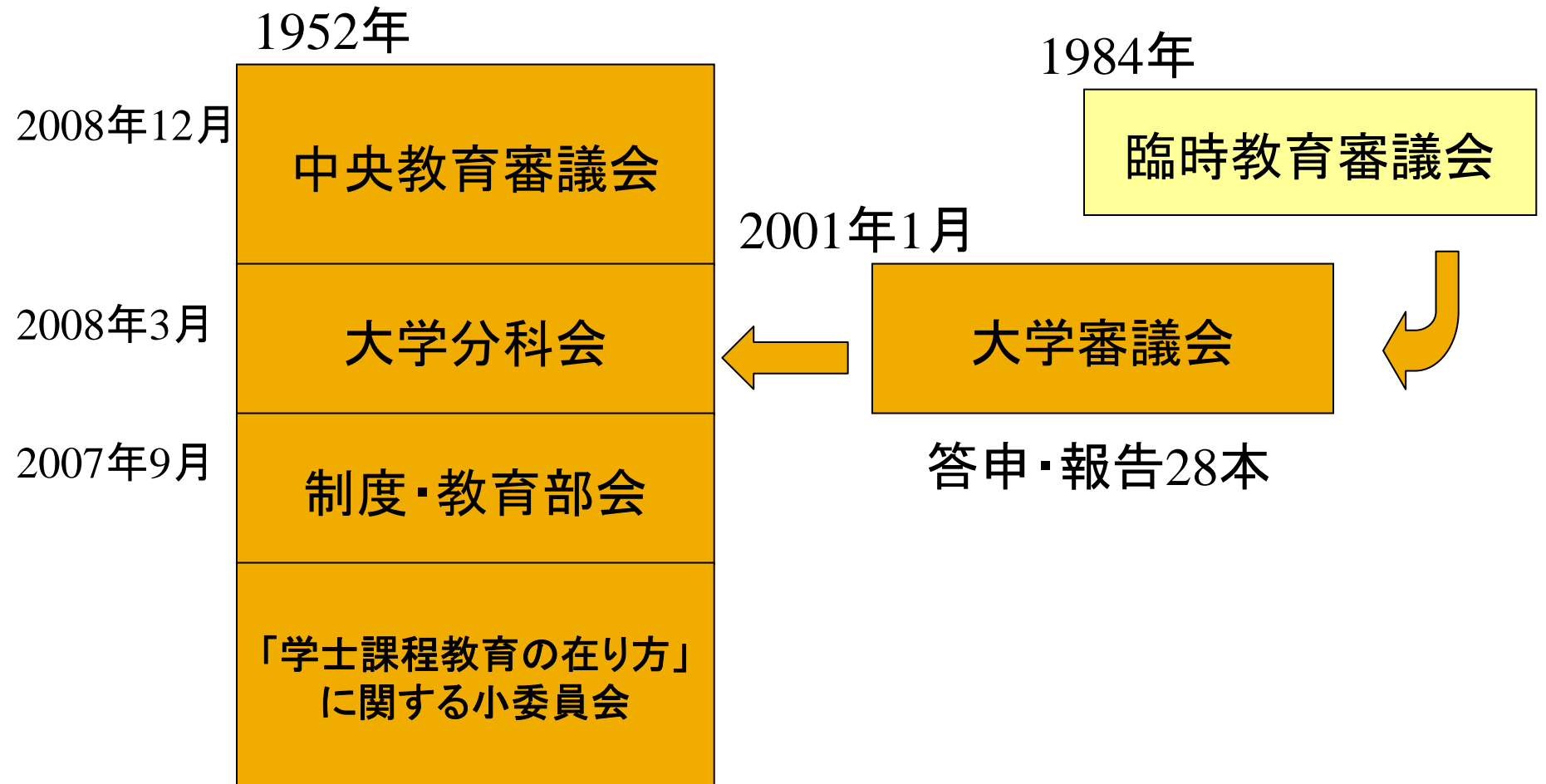
パネリスト

福永 哲夫 (社)日本体育学会会長
鹿屋体育大学学長

松浦 道夫 桃山学院大学学長
(社)全国大学体育連合理事長

山田 茂 (社)全国大学体育連合理事長
東京大学准教授

中央教育審議会



中央教育審議会
「学士課程教育の構築に向けて」
の概要

構成(目次)

- 第1章 グローバル化、ユニバーサル段階等をめぐる認識と改革の基本方針
- 第2章 学士課程教育における方針の明確化
- 第3章 学士課程教育の充実を支える学内の教職員の職能開発
- 第4章 公的及び自主的な質保証の仕組みの強化
- 第5章 基盤となる財政支援

今なぜ学士課程教育か

- 「今後は、教育の充実の観点から、(中略)学位を与える課程(プログラム)中心の考え方に再整理していく必要がある」(「将来像答申」2005年)
- 「学部・学科等の縦割りの教学経営が、ともすれば学生本意の教育活動の展開を妨げている実態を是正することが強く求められる。」

3つのポリシーの明確化

各大学は自主的な改革を通じ、学士課程教育における3つの方針の明確化等を進める必要がある。

アドミッション・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

学位授与の方針

- 大学はディプロマ・ポリシーを具体化・明確化し積極的に公開する。
- 国は学士力に関し、参考指針を提示する。



多の先進国では「何を教えるか」より「何ができようになるか」を重視した取り組みが進展している。

学習成果を重視する国際的な動向

教養教育のアウトカム

(全米カレッジ・大学協会、2005年)

大学生学力評価事業

(教育支援審議会、2002年、134大学)

欧州高等教育資格枠組み

(欧州29ヶ国、2005年)

豪州 Graduate Skills Assessment

(豪州教育研究審議会、2000年、19大学)

学士力の背景

- 大学教育では何を学ばせ、どのような力がついているのかわかりにくいという声がある。
- 厚生労働省は「就職基礎能力」、経済産業省は「社会人基礎力」という考えを打ち出し、これらの能力養成や企業との連携を進めている。
- 世界的にも大学教育の透明性と学位の国際通用性が求められている。

ジェネリック・スキル

- 大学生に修得させるべき能力のうち、専攻分野の知識とスキルなどを除いた技能をさす。
- 具体的には、創造性、柔軟性、自立性、チームワーク力、コミュニケーション力、批判的思考力、時間管理、リーダーシップ、計画性、自己管理能力などで、特定の文脈を越えて、さまざまな状況のもとでも適用できる高次のスキルのこと。

就職基礎能力(厚生労働省2004年)

- 若年者の就職能力に関する企業実態調査をもとに、企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力を就職基礎能力とした。
- 「コミュニケーション能力」や「職業人意識」「基礎学力」「ビジネスマナー」「資格取得」の5分野13要素。
- 認定講座の開催と認定試験を実施している。

就職基礎能力(5分野13要素)

1. コミュニケーション能力
意思疎通、協調性、自己表現能力
2. 職業人意識
責任感、向上心・探求心、職業意識・勤労観
3. 基礎学力
読み書き、計算・計数・数学的思考力、社会人常識
4. ビジネスマナー
(挨拶、電話、訪問、来客対応)
5. 資格取得
情報技術関係、経理・財務関係、語学力関係

社会人基礎力(経済産業省2006年)

- 職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力。
- 「主体性」や「実行力」「課題発見力」「発進力」「柔軟性」「規律性」「**ストレスコントロール力**」など3分野12要素。

社会人基礎力(3分野12要素)

1. 前に踏み出す力(アクション)
主体性、働きかけ力、実行力
2. 考え抜く力(シンキング力)
課題発見力、計画力、創造力
3. チームで働く力(チームワーク)
発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、**ストレスコントロール力**

学士力(4分野13要素)

1. 知識・理解
多文化理解、人文社会自然に関する理解
2. 汎用的技能
コミュニケーション・スキル、数量的スキル、
情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力
3. 態度・志向性
自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、
倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力
4. 総合的な学習経験と創造的思考力



各大学がDPを策定する。

学士力をめぐる動き

(財)私立大学情報教育協会

「分野別学士力の提言」平成20年11月

(分野別「学士力」考察の中間報告→文科省)

- ・24分野において「最低限身につけるべき固有の能力」をまとめた。
- ・今後、「コア・カリキュラムのイメージ」「学習到達度の測定・評価」について、検討を進め、平成21年12月に報告の予定。

分野別学士力(私情協2008)

体育学

1. 身体運動を通して、健康の維持増進の重要性を学術的に理解できる。
2. 身体を動かす喜びを実感し、個人及び社会の生活の質の向上に役立てることができる。
3. 身体活動・表現を通して、コミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てることができる。
4. スポーツ競技に関する知識・技能を習得し、スポーツの発展に役立てることができる。

討論：学士力について

1. 共通する部分について
教養体育の立場から。
2. 分野別部分について
専門体育ではどのように検討が進んでいるか。
3. 学内の意志決定過程にどう関与するか。

学士力(4分野13要素)

1. 知識・理解
多文化理解、人文社会自然に関する理解
2. 汎用的技能
コミュニケーション・スキル、数量的スキル、
情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力
3. 態度・志向性
自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、
倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力
4. 総合的な学習経験と創造的思考力



各大学がDPを策定する。

分野別質保証システムと コア・カリキュラム作成

- 現在の認証評価は機関別評価だけであるが、平成23年からは分野別評価を導入することが検討されている。
- それにともなって、文部科学省は日本学術会議に分野別質保証の在り方についての検討を依頼した。

分野別質保証システムと コア・カリキュラム作成(答申文)

「大学間の連携、学協会を含む大学団体等を積極的に支援し、日本学術会議との連携を図りつつ、分野別質保証の枠組みづくりを促進する。」

「学習成果や到達目標の設定、コア・カリキュラムの策定、モデル教材やFDプログラムの研究開発などを促進する。」

分野別質保証の検討状況

日本学術会議

大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

「基本的な考え方」報告 平成21年初秋



シンポジウム開催 9～10月



個別分野での参照基準策定

分野別の教育課程編成上の参照基準

日本学術会議 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

1. 学生が身につけるべき基本的な素養
専門知識・技術、倫理観、価値観
2. 学習内容の例示
(コア・カリキュラムとは異なる)
3. 学習方法の例示



関連する学協会への参画、
若手世代や職業人、隣接領域

討論：体育の分野別質保証システムと コア・カリキュラム作成

1. 体育ではどのようにコア・カリキュラムを作成したらよいか。
2. どのように分野別評価を行ったらよいか。

プレFD

- 大学教員のFDに先立つものとして、大学院における大学教員養成プログラム（プレFD）の必要性が提唱されている。
- ・ 教授法のワークショップやTAセミナーの開催
- ・ 有効なプログラムの単位認定
- ・ 他大学でのインターンの組織的实施

プレF Dの実例

- 広島大学 アカデミック・キャリアゼミ
- 一橋大学 ティーチング・フェロー研修
- 名古屋大学 大学教員準備プログラム
- 筑波大学 P F F プログラム
(Preparing Future Faculty)

討論：プレFDと教員採用について

1. 体育ではこのプレFDプログラムをどのように開発したらよいか。
2. また、教員採用に当たってはこのような教育と教育経験をどう評価したらよいか。

分野別 F D

これまでのような一律な F D だけでなく、分野別 F D の必要性が提唱されている。

「学協会による分野別の質保証の仕組みが未発達であり、分野別 F D を展開する基盤が十分に形成されていない。」

体育ではこれにどのように応えるか。

分野別FDをどう進めるか

「(国は)大学間の連携、学協会を含む大学団体等を積極的に支援し、分野別FDプログラムの研究開発などを促進する。」

また、その前提となる体育教員に必要な職能とは何か。

討論：分野別FDについて

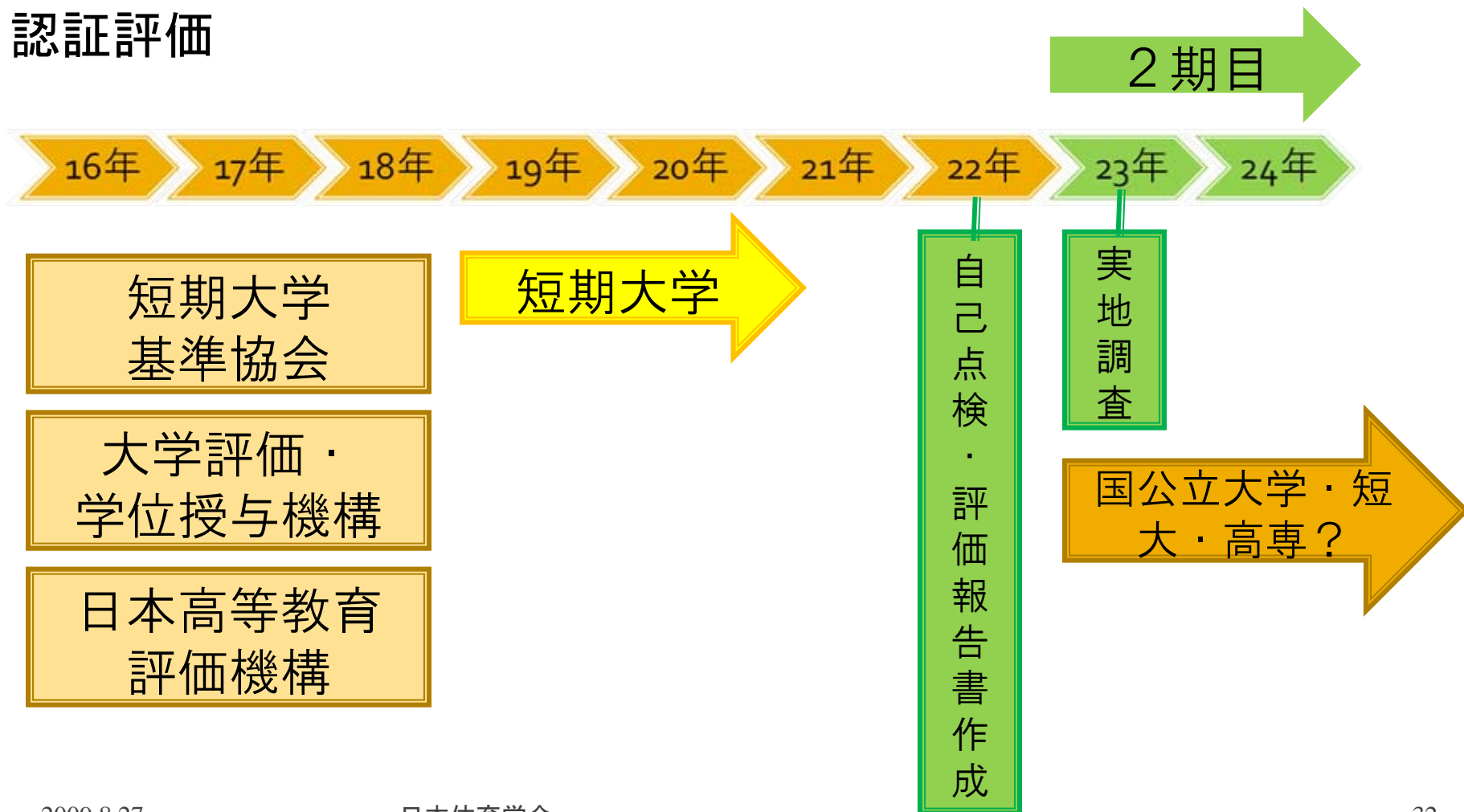
1. 体育の分野別FDをどのようにすすめるか。

教養体育、専門体育

2. 大学間の連携、学協会を含む大学団体等による分野別FDプログラムの研究開発をどのようにすすめるか。

認証評価と大学基準協会の改革

認証評価



大学基準協会の改革案

8月7日付け会員配布（HPで公開）

「大学基準」およびその解説

15項目→10項目

文言削除

点検・評価項目

260項目→105項目

P D C A の確立

8月28日まで意見受付

「大学基準」およびその解説

現行

健全な学生生活を送るための課外活動施設、体育施設、研修施設等の整備・充実を図り、かつ適切な指導や支援をすることが必要である。

修正案

学生支援に関する方針を明確にする必要がある。

点検・評価項目（修正案）

学位授与方針および教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

評価の視点

必要な授業科目の開設状況

順次生のある授業科目の体系的配慮

専門教育・教養教育の位置づけ

今後の認証評価への対応

大 学

短期大学

高等専門学校

- 4つのポリシー策定
- PDCAのモデル構築

大 体 連

大学体育問題

連絡会

- 情報収集・提供
(DAITAIRENニュース)
- 声明の公表？